

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

C H R O N I C L E

エヴァンゲリオン・クロニクル

14

定価 **690**円(税込)

2010/5/11

Mechanic Sheet

第1使徒アダム

電子機器

Character Sheet

葛城ミサト

Tactics Sheet

第13使徒バルディエル戦

Timeline Sheet

奇跡の価値は

Installation Sheet

第3新東京市

Technology Sheet

L.C.L.

Extra Sheet

用語辞典 / 企画書 / トピックス



特製 バインダー
発売中!

EVANGELION
CHRONICLE

14

目次 CONTENTS

Mechanic Sheet	メカニクシート	
第1使徒アダム		01-04
電子機器		09-10

05-08	Character Sheet	キャラクターシート
	葛城ミサト B	

Timeline Sheet	タイムラインシート	
奇跡の価値は		13-16

11-12	Tactics Sheet	タクティクスシート
	第13使徒バアルディエル戦	

Installation Sheet	インсталテーションシート	
第3新東京市 B		17-20

21-22	Technology Sheet	テクノロジーシート
	L.C.L.	

23-24	Extra Sheet	エクストラシート
	用語辞典	
25-26		企画書
27-32		トピックス

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで!

PCサイト

▶ <http://www.gainax.co.jp/anime/eva/>携帯サイト▶ <http://wpp.jp/eva/>

エヴァンゲリオン オフィシャルストア

▶ <http://www.evastore.jp/>

週刊エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版

【発行日】 2010年6月11日
 【発行】 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
 〒104-0045
 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル
 【発行人】 小野原和世
 【編集人】 クロス中山慶子
 【チーフエディター】 安部 暁
 【印刷】 大日本印刷株式会社
 ©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.
 【編集協力】 株式会社ウィーブ (石川裕仁/田代 暎/大久保圭/本多らな)
 【監修】 株式会社ガイナックス
 ©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA制作委員会
 <オリジナル版>

【編集協力】 有限会社メゾロマネア(富田英樹/高村春徳/渡邊洋三/
 加藤和弘/山田風真/桑本貴康/鈴木秀治/公直道樹)
 【執筆】 TRAP (西川紗矢/遠藤智子)/ぼろり専売
 【イラスト】 市川祐文/深野洋一(M.L.C.)/K2庵会/野尻卓
 【デザイン】 ローカル・サポート・デパートメント(島田英明/角田正明)
 株式会社 インフォジョン(河野幹哉/安川純史/阿部得之)
 【写真協力】 竹書房【レプリカント】
 <新訂版>
 【編集協力】 スタジオ・ハードデラックス株式会社(伊藤裕香/米良真一)
 【デザイン】 スタジオ・ハードデラックス株式会社(松本健典)
 ●書店向け注文センター
 (書店様からのご注文を承ります)
 ☎ 03-5212-5311
 (月~金 9:30~17:30 土日祝日を除く)
 ☎ 03-5212-5312
 ●読者サービスセンター
 (本誌関連の一般的な質問を承ります)
 ☎ 0570-008-109
 (月~金 10:00~18:00 土日祝日を除く)

*本商品は2006年に刊行された【エヴァンゲリオン・クロニクル】
 (発売:ソニー・マガジンス)に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

<http://deagostini.jp/eva/>

定期購読のご案内

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は、毎週火曜日発
 行です(一部地域を除く)。シリーズ全号が獨家に各半年に届く
 ように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の
 書店で、定期購読または予約購読をご用ください。また、小
 社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方
 でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受注センターに電話またはFAXで
 ☎ 0120-300-851
 (9:00~21:00 年中無休)
 ☎ 0120-834-353
 (定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)
2. インターネットで
<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)
 ※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
3. 定期購読申し込み用紙を郵送
 (定期購読のお知らせ)がお手元にある場合は受注センター
 までご連絡ください。

特製バンダー発売中!!

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新
 訂版」は特製バンダー4冊に収まります
 ます。エヴァンゲリオン大百科を完成さ
 せるのに不可欠な特製バンダー2・3
 巻の2冊セットを新刊特別価格990円(税
 込)で発売しております。お近くの書店
 でお求めください。

※新刊特別価格は2010年5月末までの期間限定となります。

※それ以降は通常価格1,700円(税込)となります。

※4巻目のバンダーは送料3号でプレゼントいたします。

*特別付録「ファイナルエピソード」に収録した、お宝探しに役立つ、謎の人物の顔写真に
 ついて、1. 顔の横顔写真 2. 顔の正面写真 3. 顔の正面写真(右顔のみ) 4. 顔の正面写真(左顔のみ) 5. 顔の正面写真(両顔のみ) 6. 顔の正面写真(両顔のみ) 7. 顔の正面写真(両顔のみ) 8. 顔の正面写真(両顔のみ) 9. 顔の正面写真(両顔のみ) 10. 顔の正面写真(両顔のみ) 11. 顔の正面写真(両顔のみ) 12. 顔の正面写真(両顔のみ) 13. 顔の正面写真(両顔のみ) 14. 顔の正面写真(両顔のみ) 15. 顔の正面写真(両顔のみ) 16. 顔の正面写真(両顔のみ) 17. 顔の正面写真(両顔のみ) 18. 顔の正面写真(両顔のみ) 19. 顔の正面写真(両顔のみ) 20. 顔の正面写真(両顔のみ) 21. 顔の正面写真(両顔のみ) 22. 顔の正面写真(両顔のみ) 23. 顔の正面写真(両顔のみ) 24. 顔の正面写真(両顔のみ) 25. 顔の正面写真(両顔のみ) 26. 顔の正面写真(両顔のみ) 27. 顔の正面写真(両顔のみ) 28. 顔の正面写真(両顔のみ) 29. 顔の正面写真(両顔のみ) 30. 顔の正面写真(両顔のみ) 31. 顔の正面写真(両顔のみ) 32. 顔の正面写真(両顔のみ) 33. 顔の正面写真(両顔のみ) 34. 顔の正面写真(両顔のみ) 35. 顔の正面写真(両顔のみ) 36. 顔の正面写真(両顔のみ) 37. 顔の正面写真(両顔のみ) 38. 顔の正面写真(両顔のみ) 39. 顔の正面写真(両顔のみ) 40. 顔の正面写真(両顔のみ) 41. 顔の正面写真(両顔のみ) 42. 顔の正面写真(両顔のみ) 43. 顔の正面写真(両顔のみ) 44. 顔の正面写真(両顔のみ) 45. 顔の正面写真(両顔のみ) 46. 顔の正面写真(両顔のみ) 47. 顔の正面写真(両顔のみ) 48. 顔の正面写真(両顔のみ) 49. 顔の正面写真(両顔のみ) 50. 顔の正面写真(両顔のみ) 51. 顔の正面写真(両顔のみ) 52. 顔の正面写真(両顔のみ) 53. 顔の正面写真(両顔のみ) 54. 顔の正面写真(両顔のみ) 55. 顔の正面写真(両顔のみ) 56. 顔の正面写真(両顔のみ) 57. 顔の正面写真(両顔のみ) 58. 顔の正面写真(両顔のみ) 59. 顔の正面写真(両顔のみ) 60. 顔の正面写真(両顔のみ) 61. 顔の正面写真(両顔のみ) 62. 顔の正面写真(両顔のみ) 63. 顔の正面写真(両顔のみ) 64. 顔の正面写真(両顔のみ) 65. 顔の正面写真(両顔のみ) 66. 顔の正面写真(両顔のみ) 67. 顔の正面写真(両顔のみ) 68. 顔の正面写真(両顔のみ) 69. 顔の正面写真(両顔のみ) 70. 顔の正面写真(両顔のみ) 71. 顔の正面写真(両顔のみ) 72. 顔の正面写真(両顔のみ) 73. 顔の正面写真(両顔のみ) 74. 顔の正面写真(両顔のみ) 75. 顔の正面写真(両顔のみ) 76. 顔の正面写真(両顔のみ) 77. 顔の正面写真(両顔のみ) 78. 顔の正面写真(両顔のみ) 79. 顔の正面写真(両顔のみ) 80. 顔の正面写真(両顔のみ) 81. 顔の正面写真(両顔のみ) 82. 顔の正面写真(両顔のみ) 83. 顔の正面写真(両顔のみ) 84. 顔の正面写真(両顔のみ) 85. 顔の正面写真(両顔のみ) 86. 顔の正面写真(両顔のみ) 87. 顔の正面写真(両顔のみ) 88. 顔の正面写真(両顔のみ) 89. 顔の正面写真(両顔のみ) 90. 顔の正面写真(両顔のみ) 91. 顔の正面写真(両顔のみ) 92. 顔の正面写真(両顔のみ) 93. 顔の正面写真(両顔のみ) 94. 顔の正面写真(両顔のみ) 95. 顔の正面写真(両顔のみ) 96. 顔の正面写真(両顔のみ) 97. 顔の正面写真(両顔のみ) 98. 顔の正面写真(両顔のみ) 99. 顔の正面写真(両顔のみ) 100. 顔の正面写真(両顔のみ)


EVA 15th Anniversary

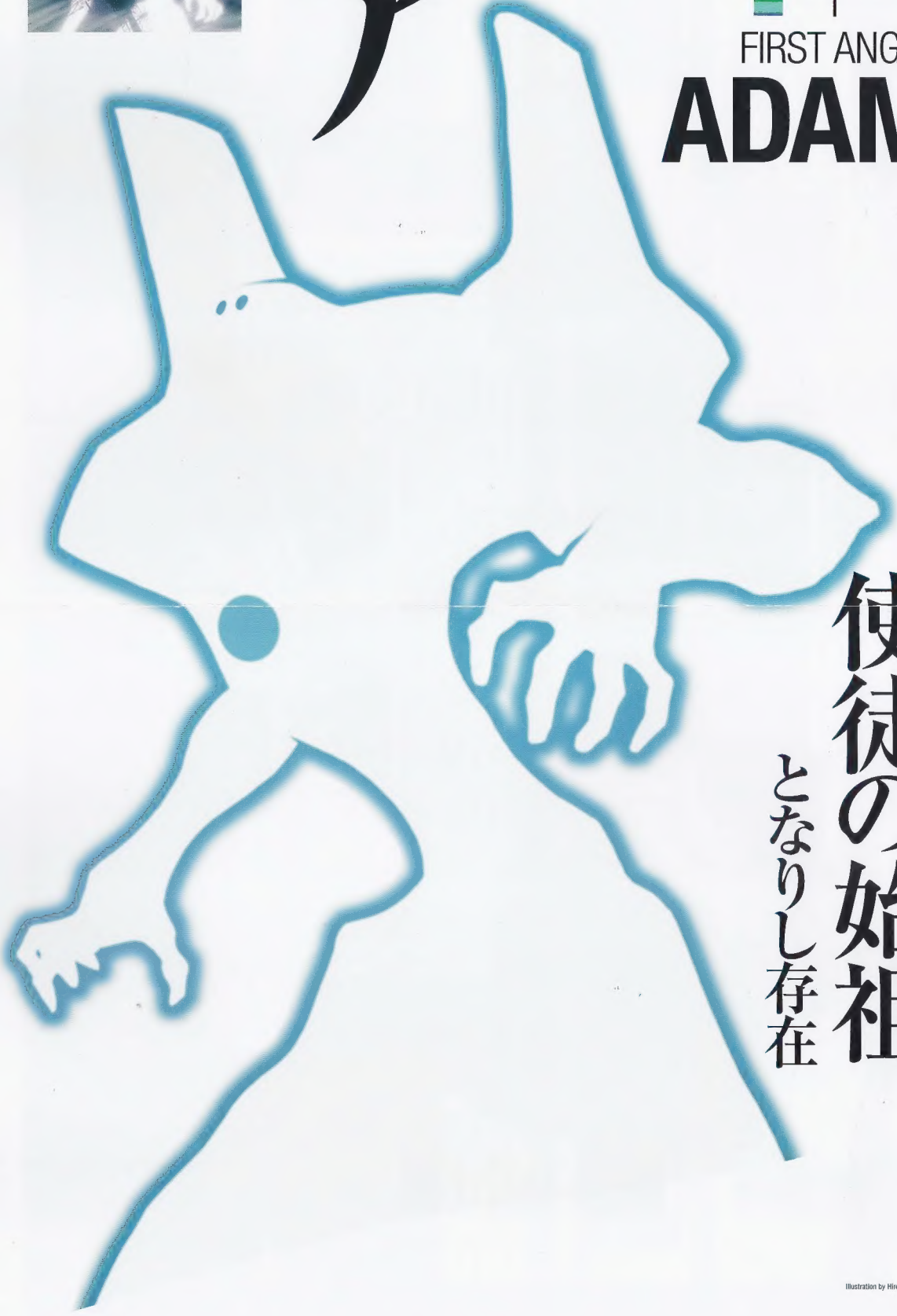


第1使徒

アダム



FIRST ANGEL
ADAM



使徒の始祖
となりし存在

Illustration by Hirofumi Ichikawa



そうだ。最初の人間、 アダムだよ (碓ゲンドウ)

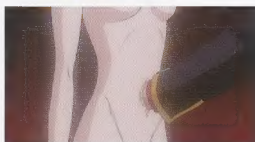
セカンドインパクトを引き起こした未知の巨人

ヒトとは別の種である使徒。それを生み出したとされる存在は、ジャイアントインパクト時にできたとしき南極の大空洞、コードネーム「WHITE MOON」(白き月)にて発見されアダムと呼称された。知恵の実を持つという人類は、この天敵すら道具と成し、使徒との生存競争及び人類補完のために利用する。葛城調査隊により発見された未知の巨人。その目覚めが引き金となり、人類未曾有の大災害セカンドインパクトが発生してしまう。

「旧約聖書」の創世記において、神が自らを模して創り出した最初の人間をアダムという。また、ユダヤ神秘主義思想「カバラ」においては、神の似姿である原始的人間アダム・カドモンは全知全能とされる存在である。



エヴァンゲリオンとシルエットが酷似しているアダム。その巨人の身体は発光しており、顔には眼窩、胸にはコアらしきものが確認できる。



アダムの肉体は最終的にリリスと融合を果たす。碓ゲンドウは、自らが望む人類補完のため勝手にアダムの肉体を宿すも融合に失敗、アダムの肉体だけが取り込まれた。

DATA

呼称：1st ANGEL

第1使徒

天使名：ADAM

アダム

関連事項 RELATED MATTERS

- 葛城調査隊
- リリス
- 使徒
- セカンドインパクト
- 白き月



南極にて未知の巨人を発見した国連の調査隊。セカンドインパクトで壊滅したが、葛城ミサトはその唯一の生き残りである。

アダムの身体と能力

S機関を動力とする生命体で、人型の巨大な身体は天の御使いのごとく発光している。使徒を生み出した始祖とされ、A.T.フィールド解放によりセカンドインパクトという未曾有の大災害を起こす。まさしく創造と破壊をもたらす造物主に近い存在ともいえる。



巨人の手に刻まれたSのシンボル。これは「EVA」のシンボルであり、また「EVA」の動力源であるS機関のシンボルでもある。



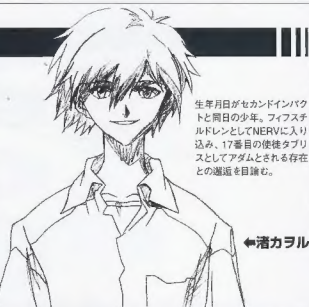
巨人が立ち上がったとき、その巨大な身体は周囲の大地を照らすように発光した。

分かれた肉体と魂

アダム計画により、肉体と魂の両方からアダムの復活が試みられている。肉体はサンプル「A-01」(「A」は「ANGEL」ということなると思われ、「01」は第1使徒のことを指すと推測される)としてNERVドイツ支部にて復元された。一方、魂はゼーレによりサルベージされ、人間(活カラル)の肉体へ移されたと考えられている。



復元されたアダムの肉体は殻ゲドゥの手に渡る。そこで後の右腕に移され、「アダムとリスの融合」による人類補完に用いられることとなる。



生年月日がセカンドインパクトと同日の少年。フィッシュバレンとしてNERVに入社。17歳の誕生日にリスとしてアダムとされ存在との邂逅を目指す。

←活カラル

使徒の始祖たる存在

単体である人類がリスの卵一卵き月より生まれた種ならば、唯一生命である使徒はアダムの卵一卵き月より生まれた種といえる。その使徒は、アダムと同様に生命の实とされるS機関を持ち、各々が強靱な生命力と物理的に影響を及ぼすほどの強力なA.T.フィールドを備えた生命体である。なお、アダムと同時に使徒も動き出す可能性があったはずだが、セカンドインパクトの際、葛城調査隊により「ガフの扉が開く同時に、熱処理を開始」されている。これが何らかの影響を与え、使徒の活動に15年の月日を要したものと考えられる。



「正当な継承者たる者しかたがひない」使徒、その始祖アダムと、タプリスとの会話で語るゼーレ。人類を「偽りの継承者」と題していることから、本来は使徒こそが地球に生きる生命体だったのかもしれない。

アダムとエヴァンゲリオンとの関係

アダムを模して造り出されたものが人造人間エヴァンゲリオンである。事実、第17使徒タプリスはEVAを「僕と同じ体」と語っていた。そのため、EVAはS機関を持たないものの、基本的に使徒と同列の存在ともいえる。人類にとって「忌むべき存在」であるアダムのコピーを用いてまで使徒と戦う術と成し、生き残ろうとする。そこにヒトの業が垣間見えよう。



アダムを完全に解析、複製することはいわば、送り出したEVAは最終者への精神汚染や原因不明の暴走がままよう、ヒトの業には余る代物であった。

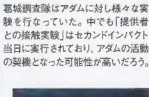
E計画

「アダムよりヒトの造りしもの、EVA」——赤木元オコ博士の語った言葉がE計画を端的に表しているだろう。別名アダム再生計画とも言われる通り、人類の技術によってアダムの複製を造る計画であり、その成果が人造人間エヴァンゲリオンである。なお「E」は「EVANGELION」の頭文字と考えられよう。結果、アダムの肉体はコピーできても魂を造り出すことはできなかったため、EVAの複製にはサルベージされた魂と遺格者が必要であった。



セカンドインパクトの発生

アダムの活動が原因で引き起こされたセカンドインパクト。この現象で地軸はねじ曲がり、地球規模で異常気象が発生、その結果、世界に経済恐慌と内戦が起こる。発生源の南極は大気成分が変化し、全生物は微生物に至るまで徹底して消滅、死の世界と化した。



セカンドインパクトの発端は、生物の姿が多量に見られず、雪の堆りが立ち昇る死の世界となる。ここを殻ゲドゥは「腐敗の穢れなき、浄化された世界だ」と言っていた。

特記事項

ロンギヌスの槍とアダム

セカンドインパクトの際、アダムを卵に還元する役割を果たしたというロンギヌスの槍。究極というに超絶されたといえ、アダムやリスという生命の始源と同等の背景を持つ代物と考えられる。この槍はA.T.フィールドに反応し、絶対的な突破、貫通能力を有す。また、NERV本部の地下に封印されていたリスに突き刺さり、扱い、抜いた瞬間に足が生えている。このことから、槍はリスの再生能力(もしくは増殖や生物製造)を阻んでいたと推測でき、始源の存在に対する絶対力たる力を持つと考えられる。そのほかEVA初号機との合により生命の樹と化す機能も有す謎多き遺物である。



↓ロンギヌスの槍

南極から回収されたロンギヌスの槍。空母の飛行甲板を占有するほどの大きさで、初めから巨大リスの存在にあつたらしいかのよう。

追加報告

アダムのフェイク

NERV本部の地下に幽閉された白い巨人。NERVはこの存在をアダムと偽り、ヒトだけではない使徒さえも欺いていた可能性がある。これはアダムとの接触を目指すという使徒を誘き寄せるトラップとも考えられるが、実際のところ使徒がNERV本部を目指す理由は定かではない。



加持リウジは幽閉されていた存在をアダムと呼び、葛城ミサトもまた、そう信じてくれた。それが、これよりリスだと看破したのが使徒タプリスである。



様々な作戦を
指揮する



NERV



葛城ミサト

MISATO KATSURAGI

勇猛果敢な
女性指揮官

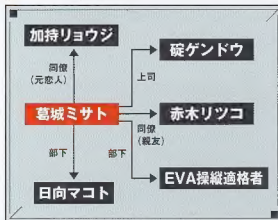
個人情報

名前	葛城ミサト
年齢	29歳
国籍	日本
生年月日	A.D.1986/12/08
血液型	A型
所属	NERV/戦術作戦部作戦局第一課 課長

特務機関NERVにおいて、戦術作戦部作戦局第一課課長という役職を務め、ほぼすべての使徒戦において指揮を執ってきた葛城ミサト。その手腕は優秀なもので、彼女の立案した作戦がなければ使徒殲滅が困難であった局面も多く見られる。

成功確率が限りなく低い作戦を立案し、操縦道格者たちに困難な命令を下していく……。彼女の立案する作戦及び指揮は一見無鉄砲にも見え、観客である赤木リツコですら激しく鼻を嗤えることもある。ただし、個体ごとに特長の異なる未知の敵、使徒との戦いとはより勝率をはじき出すことすら困難なものである。実行可能であり、なおかつ勝率が最も高いと思われる作戦を立案、指揮することは容易ではない。時に多少の無茶など承知の上で大胆な作戦を立案し、迷いなく指揮することのできるミサトは、敗北の許されない使徒殲滅戦の作戦指揮という役割を担当するに相応しい人物だといえる。

ちなみにセカンドインパクト発生時、葛城調査隊に参加していたミサトはその惨劇を目の当たりにしている。さらに、研究に明け暮れ家庭を顧みなかった父が、その瀬戸際で自分を守るために亡くなっている。そういった出来事がその心に多大な影響を与えたことは想像に難くなく、使徒迎撃の任に就いていることについて「ただ父への復讐をしたいだけなのかもしれない」といった言葉を口に出している。あえて対使徒戦の指揮を執る立場に身を置くこと、という生き方を志んだミサトは勇猛果敢な指揮官といえるが、その裏には意外な弱さも見え隠れしている。

人物相関図

表情


一撃った作戦と勝負みやり性格から、部下やシンジと同年代の男子からの受けもよいミサト。笑顔でいることが多いのもその要因のひとつだろう。



有効な作戦を考え付いた際には不敵な笑顔を浮かべることも、普段あまり見せないその表情からは、成し遂げた自信が見て取れる。



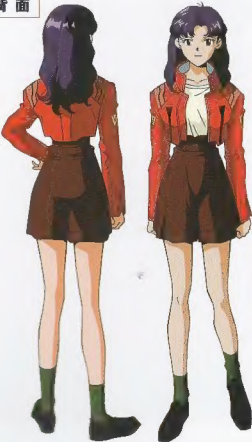
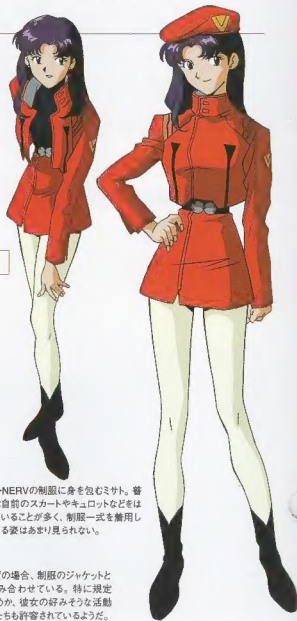
→作戦実行時は、甘さなど一切ない顔つきを見せる。普段見せている随分気な表情を一変させ、険しい表情を見せる観戦者たちに命令を下していく。



↑ミサトの静やかな笑顔は、屈託のない性格や母性を感じさせる。操縦道格者の碓ゲンドウがその笑顔によって影響を解きほかれることが多いのも、そういった影響によるものだろう。

制服


ほとんどの場合、制服すらも着崩しているミサト。しかし、正式な場には、特務的なデザインのNERV礼装を着用することもある。

背面

正面


↑↑NERVの制服に身を包むミサト。普段は自前のスカートやキャロットなどははいていることが多く、制服一式を着用している姿はあまり見られない。

↑ほとんどの場合、制服のジヤケットとズボンを組み合わせている。特に規定がないため、彼女の好みそうな運動的なアイテムも許容されているようだ。

関連登場

- NERV
- 加持リョウジ
- 日向マコト



国連軍の特務機関。使徒に対抗しうる戦力。次期人類決戦兵器「人型兵器エヴァンゲリオン」を開発する超法規制の国際的武装集団。

キャラクターシート

Character Sheet

葛城ミサト

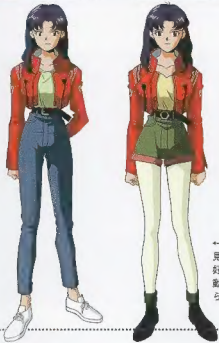
Sheet

04

M ISATO KATSURAGI

葛城ミサト

の活動記録



←仕事の際にはパンツルックも多く見られるミサト。特にショートパンツを好む傾向にあるのは見逃さないように描きやすい」と判断していることと書えらる。



ガゼル襲撃時、アスカに命令を下さすミサト。緊急事態においても冷静に作戦を立案、実行に移せるフットワークの軽さは、ミサトの長所のひとつといえるだろう。



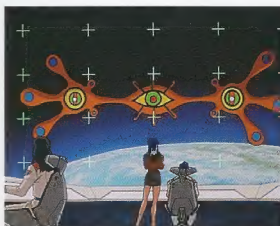
作戦に失敗すれば関係者各々からの責めが降りるが、その処理をするのがミサトの仕事である。彼女の性格からは想像し難いが、これらに滞りなくこなしているようだ。

←EVA3号機（第1使徒/ルビーエル）を収容した機体の第2実験場において事故により崩壊したミサトは、傷が完治する間にギプスをして仕事に復帰した。その案からは、任務に対する真摯な姿勢が見てとれる。



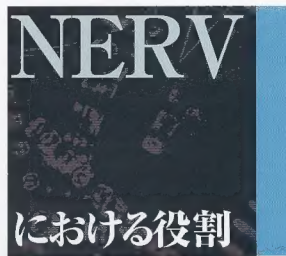
ミサトが使徒戦において初めて指揮を執ったのは、実質的には第4使徒シヤムシル戦であった。ただし、勝利をもたらした要因は、碓辛ジンの命令違反であった。ミサトの手腕が明らかとなるのは、「ヤシマ作戦」と命名された第5使徒ラミエルとの戦闘である。長々距離からA.T.フィールドを中和するとこなく突破するという大胆な作戦は見事成功し、ラミエルの撃破に至った。第6使徒ガゼルが襲撃した際には、EVA試機と国連軍艦隊による共同作戦を立案し、ガゼルを撃破。第7使徒イスラフェル戦では一時は敗北を喫するものの、加持リョウジが援けた作戦により勝利。第8使徒サングラフォン捕獲作戦では、試機及びアスカに多少の無茶を強いたものの一時捕獲、その後撤滅に成功。次に指揮を執った第10使徒サハワイル戦では、巨大な使徒をEVAの手で直接受け止めるという作戦を遂行し、成功させている。MAGIシステムすら撤退を推奨した事態における、ミサトのこの判断は特記に値するといえよう。以降はミサトの作戦により使徒を撃破することはなくなるが、その戦闘記録を見る限り、彼女が相応に重要な存在であったことは紛れもない事実といえる。

なおミサトは、対使徒戦のみならず、J.A.暴走事件においても、その暴走を単身で阻止する活躍を見せている。実際には何者かの工作によりJ.A.が停止したものと見られているが、この事件は彼女の行動力を顕著に表した事例といえるだろう。



最高司令官、副司令官不在時に使徒が現れた場合は、ミサトが責任者となる。その能力が高く評価されているという証左といえよう。

戦術作戦部作戦局第一課課長という役職に就き、階級は一時（後に三佐）であるミサトは、現場において多大な影響力を持つ存在である。多少の強引さもあるが有能な作戦部長である彼女に直接命令を下せる存在は、NERV最高司令官の碓辛ジンドルあるいは副司令官の冬月コウゾウの2名であり、対等な位置にいる人間も赤木リツコくらいのものである。一方、上司としてみた場合、直属の部下である日向マコには慕われており、EVA操縦者たちからも一定の信頼を得ているようだ。難しい立場に置かれながら、作戦を進める上で適当な人間関係を構築していることは評価すべき点のひとつといえるだろう。



適格者の保護者としての役割



命令違反したシンジを叱るミサト。この時点ではまだシンジの性格、心構えといった面を認識しきってはいなかったため、どちらかというと保護者よりも上司としての心算が強かった。

アスカがシンジを内罰的だと責めるのを見て、それもシンジの生き方なのだと言って彼女をなだめるアスカ。性格的には正反対の2人の間で、癖はさかんに異なることもあったようだ。



ミサトには、EVA操縦者である碓辛ジン、惣流・アスカ・ラングレーの保護者というもうひとつの顔がある。2人の少女少女と同居している彼女は友人、特に家事をするでもなく、保護者というよりは友人といった関係に近い。ただし、保護者としての接し方は、彼女なりに考慮しているようで、性格面が不安定なシンジに対しては諭すような言葉かけをかけることが多い。一方、プライドの高いアスカに対しては、そういった気の回し方はあまり見せなかった。アスカとの関係には、自身と加持の関係が影響を及ぼしていたようだが、3人の関係がおおむね良好であったことはミサトの努力の賜物といえるだろう。

個人情報

名前	葛城ミサト
年齢	29歳
国籍	日本
生年月日	A.D.1986/12/08
血液型	A型
所属	NERV/戦術作戦部作戦局第一課 課長

特務機関NERVにおいて、戦術作戦部作戦局第一課課長という役職を務め、ほぼすべての使徒戦において指揮を執ってきた葛城ミサト。その手腕は優秀なもので、彼女の立案した作戦がなければ使徒殲滅が困難であった局面も多く見られる。

成功確率が限りなく低い作戦を立案し、操縦適格者たちに困難な命令を下していく……。彼女の立案する作戦及び指揮は一見無鉄砲にも見え、観客である赤木リツコですら激しく鼻を嗤えることもある。ただし、個体ごとに特長の異なる未知の敵、使徒との戦いとはより勝率をはじき出すことすら困難なものである。実行可能であり、なおかつ勝率が最も高いと思われる作戦を立案、指揮することは容易ではない。時に多少の無茶など承知の上で大胆な作戦を立案し、迷いなく指揮するのでできるミサトは、敗北の許されない使徒殲滅戦の作戦指揮という役割を担当するに相応しい人物だといえよう。

ちなみにセカンドインパクト発生時、葛城調査隊に参加していたミサトはその惨劇を目の当たりにしている。さらに、研究に明け暮れ家庭を顧みなかった父が、その瀬戸際で自分を守るために亡くなっている。そういった出来事がその心に多大な影響を与えたことは想像に難くなく、使徒迎撃の任に就いていることについて「ただ父への復讐をしたいだけなのかもしれない」といった言葉を口に出している。あえて対使徒戦の指揮を執る立場に身を置く、という生き方を選んだミサトは勇猛果敢な指揮官といえるが、その裏には意外な弱さも見え隠れしている。

表情


→作戦実行時は、甘さなど一切ない顔つきを見せる。普段見せている破天荒な表情を一変させ、険しい表情を見せて隊員たちに命令を下していく。



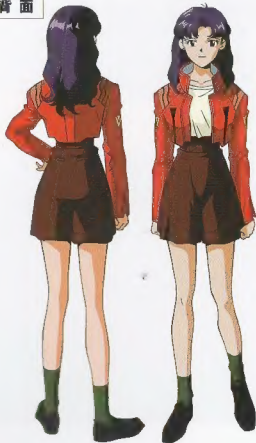
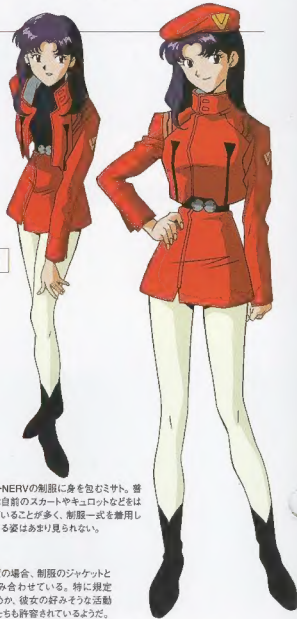
有効な作戦を考え付いた際には不敵な笑顔を浮かべることがも。普段あまり見せないその表情からは、成功への自信が見て取れる。



↑ミサトの穏やかな笑顔は、田尻の不经世な個性や母性を感じさせる。操縦適格者の経シヅメがその笑顔によって解落を解きほかれることが多いのも、そういった影響によるものだろう。

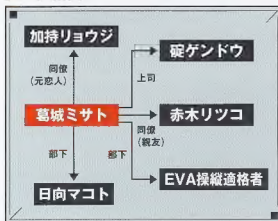
制服


ほとんどの場合、制服よりも體服しているミサト。しかし、正式な場に赴く際には、特製的なデザインのNERV制服を着用することもある。

背面

正面


↑↑NERVの制服に身を包むミサト。普段は自前のスカートやキャロットなどは持っていることが多く、制服一式を着用している姿はあまり見られない。

↑↑ほとんどの場合、制服のジャケットと私服を組み合わせている。特に規定がないため、彼女の好みそうな活動的なでも許容されているようだ。

人物相関図

関連事項

- NERV
- 加持リョウジ
- 日向マコト



国連軍の特務部隊、使徒に対抗しうる戦力。汎用人工型決戦兵器人工型決戦兵器アトロンを擁する超法規制の国際軍装集団。

キャラクターシート

Character Sheet

葛城ミサト

Sheet

04

MISATO KATSURAGI

葛城ミサト

の活動記録



—EVA03機 (第13使徒/ルビーエム) を駆使した葛城の第2機体運用において事故により負傷したミサトは、傷が完治する前にギアスをして仕事に復帰した。その頃から、任務に対する真摯な姿勢が見えてくる。

—仕事の態にはパンフレットも多く見られるミサト。特に「ジョイント・リンク」を好きな傾向にあるという。よく「おれ、動きやすい」と判断してのことと考えられる。



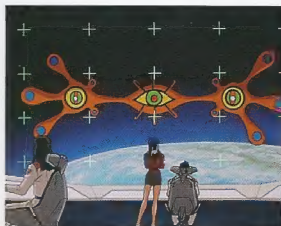
ガキル艦乗時、アスカに命令からの苦情が殺到するが、その苦情をすべてのおとりの仕事である。彼女の性格からは想像し難いが、これらに寄りきりなしているようだ。

作戦に失敗すれば関係者各層からの苦情が殺到するが、その苦情をすべてのおとりの仕事である。彼女の性格からは想像し難いが、これらに寄りきりなしているようだ。



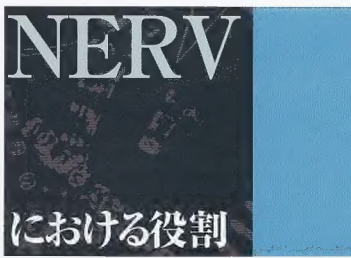
ミサトは使徒戦において初めて指揮を執ったのは、実質的には第4使徒シマシエル戦であった。ただし、勝利をもたらした要因は、碇シンジの命令違反であった。ミサトの手柄が明らかとなるのは、「ヤシマ作戦」と命名された第5使徒ラミエルとの戦闘である。長々距離からA.T.フィールドを中和することなく突破するという大胆な作戦は見事成功し、ラミエルの撃破に至った。第6使徒ガキエルが襲撃した際には、EVA試作機と国連軍艦隊による共同作戦を立案し、ガキエルを撃破。第7使徒イスラフェル戦では一時は敗北を喫するものの、加持リョウジが援けた作戦により勝利。第8使徒サングルフォン捕獲作戦では、試作機及びアスカに多少の無茶を強いたものの一時捕獲、その後撤滅に成功。次に指揮を執った第10使徒サハワイル戦では、巨大な使徒への対で直接受け止めるという作戦を強行し、成功させている。MAGIシステムすら撤退を推奨した事態における、ミサトのこの判断は特記に値するといえよう。以降はミサトの作戦により使徒を撃破することはなくなるが、その戦闘記録を見る限り、彼女が相応に重要な存在であったことは紛れもない事実といえる。

なおミサトは、対使徒戦のみならず、J.A.暴走事件においても、その暴走を単身で阻止する活躍を見せている。実際には何者かの工作によりJ.A.が停止したものと見られているが、この事件は彼女の行動力を顕著に表した事例といえるだろう。



最高司令官、副司令官不在時に使徒が襲った場合は、ミサトが責任者となる。その能力が高く評価されているといふ証左といえよう。

戦術作戦部作戦局第一課課長という役職に就き、階級は一尉 (後に三佐) であるミサトは、現場において多大な影響力を持つ存在である。多少の強引さもあるが有能な作戦部長である彼女に直接命令を下せる存在は、NERV最高司令官の碇ゲンドウあるいは副司令官の冬月コウゾウの2名であり、対等な位置にいる人間も赤木リツコくらいのものである。一方、上司としてみた場合、直属の部下である日向マコには慕われており、EVA操縦適格者たちからも一定の信頼を得ているようだ。難しい立場に置かれながら、作戦を進める上で適当な人間関係を構築していることは評価すべき点のひとつといえるだろう。



適格者の保護者としての役割



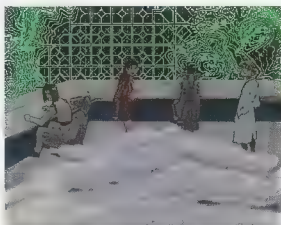
命令違反をしたシンジを叱るミサト。この時点ではまだシンジの性格、心情といった面を理解していなかったため、どちらかという保護者より上司としての心算がっていた。

アスカがシンジを内面的だと責めるのを見て、それもシンジの生き方なのだと言って彼女をなだめるミサト。性格的には正反対の2人の間で、極はさみにいることもあったようだ。



ミサトには、EVA操縦適格者である碇シンジ、惣流・アスカ・ラングレーの保護者というもうひとつの顔がある。2人の少女少女と同居している彼女だが、特に家事をするでもなく、保護者というよりは友人といった間柄に近い。ただし、保護者としての接し方は、彼女なりに考慮しているようで、性格面が不安定なシンジに対しては諭すような言葉をかけることが多い。一方、プライドの高いアスカに対しては、そういう気の回し方はあまり見せなかった。アスカとの関係には、自身と加持の関係の影響を及ぼしていたようだが、3人の関係がおおむね良好であったことはミサトの努力の賜物といえるだろう。

碇 ゲンドウ との関係



不完全な状態のEVA零号機を出撃させようとするゲンドウに抗議するミサト。上司の冷酷な執断に異を唱えることも多々あるようだ。

NERVの最高司令官である碇ゲンドウは、本来ならばミサトにとって信頼できる上司である。事実、そういった信頼を見せる素振りも幾分見られた。しかし、度重なる零号機の原因不明の事故、初号機に対する異様な執着、人類補完計画に関連すると思われる秘密裏の行動といった要因により、徐々にミサトはゲンドウに対する疑惑を募らせていく。それが明確なものとなったのは、同僚である加持リョウジがミサトにNERV最深处、ターミナルドグマにあるアダム(後にリリスと判明)を見せた後のことである。以降、ミサトは疑問を明らかにするため、NERVの一員としてではなく個人的に奔走をすることとなる。



酔った勢いで、それまでの想いを一気にぶつけたミサト。その後2人はキスを交わす。様々な意味で、彼女が変化を遂げかけつつあった出来事だ。

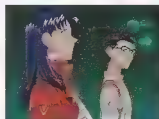
ターミナルドグマに侵入も同僚の加持に、背後から縛りをつけるミサト。これはNERVの一員としてではなく、彼女の独断による行動だった。



大学時代の恋人であり、現在は同僚である加持リョウジ。彼はNERV特殊監察部と日本国政府内務省調査部、さらにゼーレの元で諜報活動に従事する3重スパイであった。その来日と同時に、ミサトの生活はあらゆる面で大きな変化を迎えることとなった。ミサトが大学の頃から抱えていた複雑な内面を彼に吐露することにより、再び恋人関係となる。また、彼がスパイとして得た情報はNERVに対する疑問をより大きく、さらなる追求の手を喚起させることとなった。加持は程なく何者かの手によって殺害されるが、その存在は恋人だったと同時に、真実を知ろうとした同志でもあったともいえるだろう。

加持 リョウジ との関係

日向 マコト との関係



抱擁された幼弟を抱いて、軽口を叩くマコト。それは感傷しい雰囲気をおこつた彼女の気遣いであったようだが、その効果の程は定かではない。

公表されていないジオンステルボンのデータ入手し、ミサトに渡すこと。多少無茶な注文であっても従うほど、ミサトに心酔していたようだ。



NERV本部中央作戦司令部作戦局第1課に所属している日向マコト。普段、発令所内ではオペレート業務に勤む彼だが、実質的にはミサトの直属の部下であり、作戦立案の補佐を行なうほか、場合によっては個人的な密偵までこなす重要な存在である。ミサトよりも歳下ながら冷静な視点で物事を見るマコトは、直情型のミサトをクールダウンさせる役割を持っているといえるだろう。また、マコトはミサトに対し密かに恋心を抱いていたようで、それもまたミサトのために奔走する要因のひとつであったと思われる。しかし、ミサト自身が彼のそういった心理に気付いていたかは定かではない。

特記事項

向こう見ずな行動の意味

ミサト自身の行動や立案する多岐の作戦には、向こう見ずな部分が多く見て取れる。「使徒への復讐」という一念が原因のひとつとも考えられるが、A.ホムズ光州に単身機嫌に乗り込む等、使徒と関係のない場面でも無茶をしていることを考慮すると、向こう見ずな部分は葛城ミサトという人間の本性によるものと考えられるのが妥当だろう。第10使徒サハワール戦の際、彼女が口にした「できることはやっておきたい」という言葉は、「座頭状態に置かれてもあきらめない」というミサトの本質を表しており、彼女が軽・質持ちながら向こう見ずな行動を起こしている訳ではないことを証明する言葉といえるだろう。

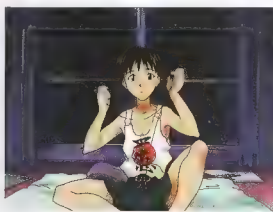


↑⇒放射能防護服



第9使徒リンドルフン捕獲作戦の際、ミサトはEVA試号機の巨型設備の限界を超えてもマグマ内への降下を断りさせた。

暴言が飛び交うゼーレに近い、一見すると高層な内閣を志すミサト。EVA開発責任者のリリスとは、時に対立することもある。



電子機器

SDAT / ビデオカメラ



心の安息をもたらす

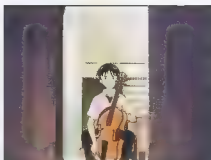
文明の利器

「弱さゆえに手に入れた知恵」——硬ゲンドウが語る“知恵”はヒトが持ち得た武器である。これを用いて人類がつくり上げたものの中に、人間の心を満たすため生み出された科学の産物がある。それは娯楽品であつたり趣味の一品であつたりと、人間の生活に潤いを与える大切な役割を持つ。

第17使徒タブリスは、音楽を「リリンの文化の極み」だと称した。タブリスが特殊とはいえ、音楽は使徒の心に届くほどの力がある。それをいつでもどこでも手軽に聴けるポータブルオーディオの存在は、人間の文化にとって大きな発明であろう。

また、映像を記録するための道具は科学の進歩と共に小型化していき、誰にでも扱える手軽さを持つに至り、便利だけでなく趣味という娯楽を与えた。

このように科学が築いた電子機器の娯楽品は、人間の暮らしには欠かせない道具である。



毎分半テロリズムと華やかなる使徒シン・音楽に慣れ、人々の心でこそ、SDATによる安息をもたらす。



毎分半テロリズムと華やかなる使徒シン・音楽に慣れ、人々の心でこそ、SDATによる安息をもたらす。

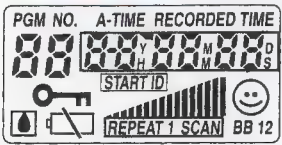
SDAT
Video camera

SDAT

SDAT (Super Digital Audio Tape) 規格のウォークマン。DATはPCM方式を用いてデジタル化した音声を磁気テープに録音再生する規格であり、高い音質を持つ。そのため業務用の録音機器によく使用されている。このSDATは、業務用だけではなく一般消費者にも手が届く製品であると思われる。



液晶表示のトラック数は常に25~28が多く、高じ曲をハイローテンションで聴いている様子。シンジは音楽は心の安撫をもち、強にとっては精神安定期的な役割を担っていたのではないだろうか。



ビデオカメラ

ケンスケ所有の「SONY SUPER8」。「スーパー8」とは、コダック社より発売された8mmモデルの規格であるが、このビデオカメラのメディアはMOサイズの光磁気ディスクであり、名称を継承した新モデルだと思われる。A4のハンディサイズで、TVチューナー用のアンテナも付いている。



このビデオカメラで太平洋艦隊を通りまくったケンスケ。普通であれば軍事機密に関する情報は許可されないはずだが、NERV(葛城ミサト?) 権限でパスしていたのだろう。



設定シンジ
相田ケンスケ

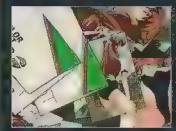
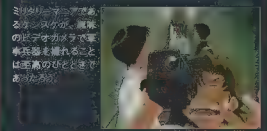
EVA初号機の専属操縦者。内向的な性格。自分の世界に没れる強靭な手芸士として音楽を聴く、ということが多い。



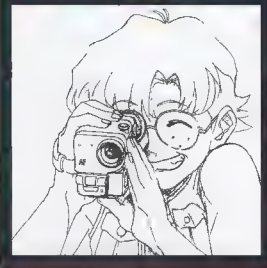
特記事項

ケンスケの趣味と実益

相田ケンスケは、授業ミサボって寝る暇もないくらい忙しい。ほとんどのミリタリーマニア、あるいはビデオニアニアでもあり、学校にも愛用のビデオカメラを常に携帯している。そのため写真の腕前もあるはずで、男子に人気のアスクを愛護して写真を売っている(？) 趣味を機軸に不器用な目を所持する少年である。



4年間の専属操縦者にはかなりの数の、特殊なアスクがサブグレイの生写真も、学校30円再生機に売れ行きはいい。



タクティクスシート

actics Sheet

第13使徒バルディエル戦

Sheet

21

THE THIRTEENTH ANGEL BARDIEL ANNIHILATION BATTLE

Illustration by K2 studio



粘菌状の体腔に寄生され、完全に支配されたEVA3号機。第13使徒バルディエルは、圧倒的な戦闘能力をもって瞬時に3号機を撃破。さらには番号機を組み散らしてしまふ。それはまさに使徒の力を有したEVAであった。そんな第13使徒バルディエルとの間で繰り返された戦闘は、必然的にEVAがEVAという未曾有の事態を招きだす。

使徒戦において立証された ダミーシステムの戦闘力と有効性

TACTICS SHEET

EVAの運用上における問題点のひとつとして、実機を運用可能なパイロットの希少性が挙げられる。これはEVAのパイロットを「遠征者」と称している点からも明らかのように、先天的と思われる適性能力なくしては、起動すらできない点に起因している。その根本的な問題をカバーする方策のひとつとして考え出されたものが、ダミーシステムである。それはパイロットなしにEVAを起動させ、さらに戦闘活動可能な状態にする、無人コントロールシステムといえよう。対第13使徒バルディエル戦は、このダミーシステムを初めて実戦投入した戦闘として記録されている。また、ダミーシステム制御による戦闘は凄惨を極め、あらゆる意味において人々の記憶に残る事例となった。

事の起こりは松代におけるEVA3号機起動実験中の事故であった。事故直後、未確認移動物体が出

現し、NERVは第一種戦闘配置を発令。未確認移動物体（＝コントロール不能となったEVA3号機）は、のちに使徒と識別され、EVA3機による迎撃作戦が展開される。しかし、式号機、番号機はいずれも中破、初号機においてはパイロットが戦闘拒否と、戦況は混乱を極めてしまふ。そこで直接作戦指揮を執っていた総指揮は、初号機の全コントロールをダミーシステムに移行することを即断。運用テストすらされていない、いきなり実戦投入となったが、ダミーシステム制御下の初号機は、驚異的な戦闘能力を発揮し、敵の推進に成功している。そもそも、このシステムはインダクションモード（手動操縦）時においてパイロットが不測の事態に遭遇した場合（例えば失神、もしくは極端な場合は死亡などに備えたバックアップコントロールとしても考えられていたようだ。そして、その試作タイプが第13使徒バルディエル直前に初号機に搭載され、因らずもパイロットの戦闘拒否という不測の事態が発生し、その効力が発揮されることとなったのだ。

実戦において有効性を証明したダミーシステムだが、その開発には赤木リツコ博士だけでなく、NERV最高司令官である碓ゲンドウ自らも関わっていたことから、NERV本内部においてかなり重要度の高いプランであったことが推察される。それはのちにEVA量産機にダミーシステムが標準装備されていたことからも明らかであろう。ちなみにダミーシステムの核となるものは「ダミープラグ」と呼ばれるエントリープラグであり、初号機に搭載されたものに関しては、プログラムに綾波レイのパーソナルデータが用いられていたらしいが、その詳細については未だ明らかになっていない。

RELATED MATTERS

- 第13使徒バルディエル
- EVA3号機
- ダミーシステム



松代で起動実験を行っていたEVA3号機は使徒に寄生され、第13使徒バルディエルとして迎撃されることとなる。

ハゲ岳野辺山での迎撃作戦

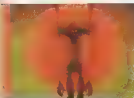
松代実験場に出現した未確認移動物体は、当初パターン・オレンジ（認識未確認）として観測されたが、ハゲ岳野辺山付近において、それはEVA3号機と確認される。しかし、完全に制御不能に陥っていたことからNERV本部は3号機を破壊、使徒と識別し迎撃作戦へと移行する。戦闘にはEVA3機が投入されたが、式号機、零号機は立て続けに中破。残る初号機に至っては、搭乗者の命令拒否により戦力外となってしまふ。この非常時に対し、作戦指揮官は初号機に実装済みであったダミーシステムを起動、ダミーシステム制御下の初号機により、使徒殲滅に成功する。

第13使徒の迎撃作戦は、その反攻方向に対し臨機応変で待ち伏せることで先制出来るはずであった。だが、EVAそのものでもある使徒の戦闘能力に対し、不意をつかれた式号機が撃破され、それを成り切りに、ここぞと回る展開となってしまふ。

1 未確認移動物体出現

TACTICS SHEET

野辺山付近に出現した未確認移動物体は、モニターによりEVA3号機と確認された。NERV本部は活動停止信号の送信、およびエンロープアの強制排出を試みるも失敗。目標は使徒と識別され、殲滅指令が下された。



夕日を背に、ゆっくりと歩行移動しながら野辺山付近へと姿を現した3号機。未確認移動物体から使徒と識別されることに。

2 式号機待機地点

TACTICS SHEET

松代から進行を続ける使徒に対し、重武器による迎撃作戦を開始。式号機は、その先鋒として配置されていた。しかし、式号機は使徒とのファーストコンタクトでダメージを受け、以後、作戦は後手へ回る形になる。



初号機パイロットとの連携に氣を取られ、式号機は使徒の不意打ちを受ける。結果、ダメージを受けたに活動不能に。この相手の攻撃が以後に響いた。

3 零号機待機地点

TACTICS SHEET

式号機の攻撃を受け、作戦本部は零号機に接近戦を避けた射撃での牽制、および足止めを指示。その間に初号機が距離を詰め、敵射角を作る予定であった。しかし、零号機は使徒の強襲により戦闘不能に。残存戦力は初号機のみとなった。



攻撃が一掃された零号機は使徒に組み倒され、左腕に受けた攻撃を受けた。作戦本部は急遽、足止めを指示したが、結果、零号機は中破、戦闘不能となった。

4 初号機待機地点

TACTICS SHEET

無情で式号機、零号機を撃破した使徒は、最後尾に控えていた初号機の配置まで侵襲。しかし、初号機パイロットは、EVA3号機（使徒）内の連絡者の身を案じて、攻撃命令を拒否。当然、使徒は初号機への攻撃を開始、戦況は悪化した。



無慈悲の初号機に対して、使徒は容赦なく攻撃を開始。が、初号機パイロットは容赦なく反撃を行わず。少量パイロットのメンタリティの弱さが露呈したといえるよ。

5 ダミーシステムの起動

TACTICS SHEET

一向に反撃しない初号機に対し、作戦本部はダミーシステムの起動を決定。初の実験投入ながらシステムは順調に作動。反撃に転じた初号機は巨額な力を発揮し、戦況を一気に逆転させた。

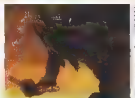


ダミーシステムを起動し、初号機は反撃を開始。使徒は正体不明に。

6 使徒、活動停止

TACTICS SHEET

ダミーシステムにより起動した初号機は、使徒を完全に沈黙させた。しかし、初号機は動きを止めた使徒の体躯を完膚なきまでに破壊。その攻撃はエンロープアを振り回すまで続いた。



初号機はダミーシステムで倒された使徒を破壊したが、その反撃は使徒の体躯を完膚なきまでに破壊。その攻撃はエンロープアを振り回すまで続いた。

技術調査

ダミーシステム

EVAを「誘惑者」なしで戦闘、その運用も全くの新システム。試作段階での実験投入ではあるものの十分な稼働し、初号機に勝利をもたらした。十分な結果。その稼働はいつの間にか技術的な進歩。その結果がグラマルロジックによって実装されたもので、試作段階への不安要素によるものなのかは不明確。さらに緊急避難を停止するのを精明すべてを閉鎖も多い。だが、その可能性を天に託して制御できる成果にもなった。



初号機はダミーシステムに実装されたダミーシステムで、エンロープアからの接触で使徒の命が奪われたいと願っている。

追加報告

EVA3号機パイロットのその後

初号機により臨機的に破壊された3号機は、最終的にエンロープアの被害でも無事つづかされた。それにより初号機パイロットは、初号機に勝利したものの、その人物は片足切傷の外的障害を負った。その後、その結果は使徒の悪い癖に、彼女と彼女に親密に接していた。初号機パイロットの両眼生である。



大破したエンロープアからの接触で、3号機パイロットは、初号機に勝利したものの、その人物は片足切傷の外的障害を負った。その後、その結果は使徒の悪い癖に、彼女と彼女に親密に接していた。初号機パイロットの両眼生である。

新世紀年表

 1995年12月17日
 1996年1月17日

奇跡の価値は

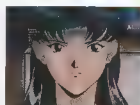
LIVE FROM THE STRATOSPHERE

A.D.2015

01 ミサト、15年前の出来事を回想する

15年前の悪夢の記憶が蘇える

ある日、出勤の準備をするミサトは15年前の出来事を思い起こしていた。西暦2000年、セカンドインパクトが起きたまさにその時、少女だったミサトは父である葛城博士と共に南極にいたのだ。吹きさらす西風、崩れかけた建物の向こうに垣間見えた光の巨人。地獄のような光害のなかで、父は、血だらけになりながらもミサトを救出カプセルに乗せ、力尽きたのだった。



「胸に残る痛みと後悔は、父を失ったのと同じくらいなのよ」



EVAに似たシルエットの光の巨人。線を射出カプセルに乗せ、その上にのびるように崩れ落ちた葛城博士。南極全体を不気味な霧が覆い、その中心から4枚の光の翼が天に向かってはたらく。それはまさに悪夢のような出来事だった。

A.D.2015

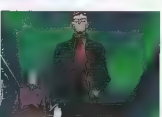
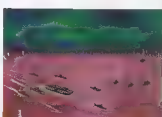
02 ゲンドウ、ロンギヌスの槍を回収

長大な物体が南極上を運ばれていく

ちょうどその頃、ゲンドウと冬月は南極にいた。赤紫に突色した死の海を進む艦隊。旗艦である空母には、長大な塊状の物体が載せられている。「いかなる生命の存在も許さない死の世界、南極。……いや、地獄というべきかな」つがやく冬月に「だが、我々人類はここに立っている。生物として生きてきたまだ」ゲンドウ。そのように自らの力を過信した人間の傲慢が、セカンドインパクトを引き起こしたのだと、冬月は皮肉を口にした。



「我々が南極に到着するまで、この巨大な塊状の物体は、ゲンドウたちには回収できなかった。つがやく冬月はそれを助けたのだ。」



死の世界へと成り果てた南極。「だが、悪夢の汚れなき、浄化された世界だ。それがゲンドウは言うのだが、冬月は「俺は、罪にまみれても人が生きている世界を望むよ……」と、そっと反論するのだった。

2015年

ミサト、15年前の出来事を回想する



ケンスケ、ミサトの昇進に気づく


 シンジ、試験結果について賞賛される
 EVAパイロットのハーモニクス試験が実施される


●第3新東京市

02 ケンスケ、ミサトの昇進に気づく

シンジとトウジ、ケンスケの3人は、ミサトの家で雨宿りしていた。ミサトはまだ来ているようだから静かにしようと思っていたところへ出勤準備を終えた本人が現れる。その時、襟裏から彼女が三佐に昇進していることにめざと気づいたケンスケは、かしまってお評をした。「このたびはご昇進おめでとございます！」「……ありがとうございます。ミサトは礼を言うものの、その笑顔はどこかあまいだった。



「ハン! 私目当てじゃないの? 毎登えでんだから見たら好きだよ!」とアスカに言われ、自暴自棄的だと怒るトウジも。

2本になった襟章の事は、ミサトが一瞬から三佐へ昇進したことを意味している。しかしなぜかミサトは隠しそではなかった。



A.D.2015

●NERV本部

03 ハーモニクス試験が実施される

ハーモニクス試験を受ける3人のEVAパイロットたち。めざましい進歩を見せたシンジはリツコを感嘆させるが、一方でアスカを不機嫌にさせてしまう。ミサトと海路に審いたシンジは、ほめられてもあまり嬉しくないと言った。「逆にアスカを怒らせるだけだし。どうして怒つたんだらう。誰にもとなくつぶやくシンジに、ミサトは「そうして人の顔色ばかり気にしているからよ!」、突き放すように言うのだった。



EVAに乗るために生まれてきたような子——オペレーターも負責するが、ミサトは、本人は嬉しくもないだろうと辛やがかった。

「よかったわね、お褒めの言葉を聞いたいて」熱感長を見せるシンジに無気を感じるのか、アスカの態度はひどくどくどくした。



A.D.2015

●第3新東京市

04 ミサトの昇進祝いパーティーが開かれる

ケンスケの発案でミサトの昇進祝賀会が開かれた。だが、騒ぐ仲間たちの中で、シンジは「なんでわざわざ大騒ぎしなきゃならないんだろ」と、ひとり冷めたままである。一方のミサトも、昇進することが目的でここにいるわけじゃないからとつぶやく。「じゃあなんでNERVに入ったんですか?」そう尋ねるシンジ。ミサトは手もったビールを揺らし、「さて、昔のこんなんで忘れちゃったよ!」、はぐらかすのみである。



リツコに加持、ヒカリまで参加して、にぎわう祝賀会。しかし、ほんのりとした気持で、好き嫌いも無いとアスカは不満そうだ。

どうしてこんな風になる必要があるの。褒められることに嬉しさも無い。世に生かされているのは、みんなの気持ちで理解できなかった。

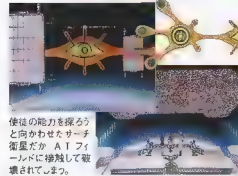


A.D.2015

●NERV本部

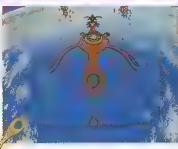
06 第10使徒、インド洋上空に出現

新たな使徒が、超高空にその姿を現した。インド洋上空、地球衛星軌道上に正体不明の物体が出現した。第10使徒である。NERVはただちに警戒態勢に入り、データ収集を開始。一方の使徒は自らの身体の一部を切り離し、地上へ投下しはじめた。初弾は大平洋上へ落ち、海の上に巨大な衝撃波を形成する。使徒の身体そのものが爆弾なのだ。使徒の質量と位置エネルギーが加味されたその破壊力は恐ろべきものだった。



使徒の能力を探ろうと向かわせたサーチ衛星だが、AIフィールドに接続して破壊されてしまう。

1アメーバのような不気味な形の第10使徒。シンドロームの身体をゆっくりに動かし、宇宙を浮遊する。



ちぎれ落ちる使徒の身体。位置エネルギーも加わり、さまざまな破壊力をも発揮し、さまざまなダメージも与えられる。

使徒の攻撃は第3新東京市に接近。衛星距離は一瞬も離れず、シンドロームも切り離される。

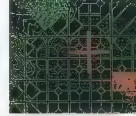
07 ミサト特別宣言D-17を発令する

顔容修正を繰り返し、確実に第3新東京市に狙いを定める使徒。さらに使徒のジャミングでゲンドウとも連絡が取れない。ついにミサトは特別宣言D-17の発令を決断した。「ここを放棄するんですか?」驚く方向にミサトが返す。「いいえ。ただ、みんなで危ない機を渡ることはないわ!」



UN軍の「航空機も効果なし」。発令所の緊張が高まる。

だが使徒本体が落ちたから、「そのときは第3新東京市の誕生から」と、ミサト。



ミサトの昇進祝いパーティーが開かれる



ロンギヌスの槍を回収する
ゲンドウと冬月、
南極大陸跡地に移動



自らの身体の一部を
質量弾として
投下しはじめる
第10使徒、
インド洋上空に出現



使徒、電波妨害によって
消息を絶つ



ミサト、特別宣言D-17を
発令する

A.D.2015

●第3新東京市

08

市民の避難が始まる

D-17の発令を受けて市民の避難がはじまり、都市に残るのはNERVスタッフのみとなった。現状を鑑みたりツコは、善手を判断してEVAを捨てる気かとミサトを問い詰めるが、EVAに離れるだけだとミサトは善えた。「やることはやっときたいの。使徒殲滅は私の仕事です」



一般道は大渋滞。大勢へは向かって避難作業は進む。

仕事ではなく、使徒に復讐したいだけなのだろう。ツコはミサトを強くなじぶ。



A.D.2015

09

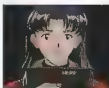
ミサト、使徒殲滅作戦の概要を説明

危うい作戦内容がシンジたちに告げられた

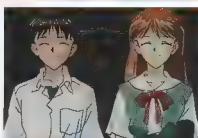
落下する使徒をEVAで受け止める——今回の作戦内容をミサトから聞かされ、シンジたちは驚きを隠せなかった。もし使徒が予想と外れた位置に落ちてきたら、当然ながら作戦は失敗。EVAの機体が衝撃に耐え切れなくても失敗。成功の可能性は著しく低い。だが諦めがなくてやるしかないのだ。誰ひとり逃げ出そうとしない子供たちを見て、ミサトは「すまみんなにステークおごるから」と約束した。



「諦めがなくてやるしかないのだ。誰ひとり逃げ出そうとしない子供たちを見て、ミサトは「すまみんなにステークおごるから」と約束した。」



規則で讀書を書くことになってくるのが苦しい。アスカ。既然大丈夫も必要ないと答えた。



内心でどこまでメンテ、キタなんてと呆れつつも、ミサトの手前やどよよとつぶやいてる子供たち。



今度は無事に追加したレイに肉、ミサトもこのままじゃあ、

A.D.2015

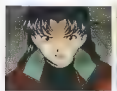
12

使徒降下開始、作戦スタート

3機のEVAが落下予想地点へ向かって疾走する。使徒の姿がモニターに捉えられた。距離は約2万5千。まっすぐに本部を目指して落ちてくる。EVAにスタート姿勢を取らせてミサトが告げる。「目標は光学観測による弾道計算しかできない。よってMAGIが距離1万までは誘導します。その後は各自の判断で行動して。あなたたちにして任せるわ。そしてその時が来た。「スタート!」シンジの合図で3機のEVAが一斉に走り出す。成功率0.00001%の作戦の開始である。



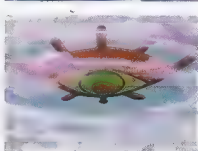
位置を特定できなかった使徒が、3機EVAの位置も不明なまま、落下し始めた。



おいでもあったわ。EVA全機、スタート位置、ミサトの命令を受けてスタートダッシュの準備姿勢をとるEVA。



頭を下げたシンジは、使徒が地面に落ちた瞬間に、



その間も使徒は地面へ迫り、その間も使徒は地面へ迫り、その間も使徒は地面へ迫り、

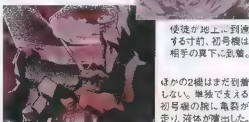
13

初号機、使徒を受けとめる

真っ先に落下予想地点に到着したのは初号機だった。使徒の下へ降り込むと同時にシンジが叫ぶ。「フルド全開!」周囲の空気がふわりとゆがんだ。頭面を天に向かって突き上げる初号機。最大出力で展開されたA.T.フィールドが、使徒の身体をろうじて受け止めた。



使徒が地上に到達する寸前、初号機は相手の真下に到着。



ほかの2機はまだ到着しない。単独で支える初号機の腕に、鳥籠が歪り、液体が噴出した。

2015年

第3新東京市民の避難がはじまる

EVAによって落下する使徒を受け止めることになる

EVAの発進準備が進められる

シンジ、決意を新たにする

使徒、大気圏内への降下開始



人工ブロック上に林立する建造物と、洞ノ湖周辺に自然が融合した特徴的な景観を持つ第3新東京市。技術の粋を凝縮して造られた科学都市は、将来的には首都となるべく建設された。

第3新東京市

都市選定の経緯と建設計画の特異性

2000年に起きたテロによる旧東京壊滅から程なく、第1次選都計画により臨時首都が第2新東京市(長野県旧松本市)に定められた日本。その臨時政府がセカンドインパクトからの復興を押し進めている一方で、世界平和の旗手となった国連に多大な影響力を及ぼす秘密結社ゼーレは、箱根方面富士山麓の地下深くにはほほ球状の巨大空洞を発見する。南極で発見された球状空間に酷似したその空間は、発見当初、ゼーレを中心に独自の調査が行なわれていたが、意外なかたちで日本の中樞直下に位置することとなる。

程なくして、第2新東京市に代わる次期首都への移管計画「第二次選都計画」が国会で承認された際、新たな首都となる「第3新東京市」として選定された場所は、神奈川県足柄下郡箱根町を中心とした地域であった。市街地は東西方向に約2.3km、南北方向に約3.7km程度と、面積だけで比較するならば日本最小の市である埼玉県蕨市よりさらに小さな場所。都市と呼ぶには小さすぎるその場所は、ゼーレが発見した巨大空洞の直上だった……。いうまで

もなく、箱根が第2次選都計画の当該地に選ばれた理由は巨大空洞の直上だったためである。さらには公にはされていないものの、アダム(後にリリスであることが判明)を有する巨大空洞には、アダムを指して正体不明の巨大物体——使徒——が隠れることも予見されていた。その危機に対する備えを万全なものにすべく、日本国政府ではなく世界規模の巨大組織である国連主導のもとで計画は進行し、他の地域の復興に先立って急ピッチで建設作業が進められた巨大空洞(ジオフロント)の監護を含め、2015年、使徒襲来の時を目前に完成を目指すこととなる。計画によれば、第3新東京市の都市としての規模は、立案の段階から「首都」と呼ぶには頼りないものであった。しかし、もとより同都市は「優れた都市」であることよりも「使徒撃退の拠点となる都市」であることを義務づけられていた。最終的には科学の粋をこらした「要塞都市」という特異な姿を成すこととなったが、2015年の使徒襲来により、結果的にその計画の正当性が証明されることとなる。

なお、第16使徒アルミサエル戦における零号機の自爆により、第3新東京市はその大部分が消滅。ついに日本の首都となることはなかった。



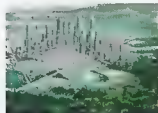
- NERV
- 国連
- 日本国政府
- 第2新東京市



第3新東京市は本部を置く国連直属の特務組織、使徒と呼称される未知の生命体の調査、研究、壊滅を主な任務とする。

第2次運都計画に基づく整備と
NERVの活動を優先した設備

2001年に第2新東京市を首都と定めた日本政府。しかしこの行為は、表向きは臨時首都の選定であり、2005年には国連主導による第2次運都計画(第3新東京市開発計画)が発動された。他の地域の復興に先立って建設作業が進められた第3新東京市。その当該地には芦ノ湖沿岸が選定され、すでに建設されていたゲルヒルン及びジオフロントの整備を含め、2015年を目処に整備事業が進められた。第2次運都計画に基づき整備により、第3新東京市は都市の体を成して行った。だが、その実態は運都を前提とした都市建設計画ではなく、国連(実質的にはゼーレ)が支援してきた脱ゲンドウ率いる組織(2015年時はNERV)の活動を優先した要塞都市の建設計画だった。しかし、その事実が公となったのは2015年、NERVが本格的な活動を開始した後のことである――。



高層ビルが立ち並び、過密な第3新東京市。4車線あるにははるかに道路が車道の目のように張り巡らされ、5代目の計画都市となっている。

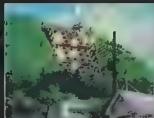


市街地を多く横断レイと縦レン、住民の大半がジオフロントにあるNERV関係者とその家族であるため、人口は少なく、人の家は常に建ちあがっている。

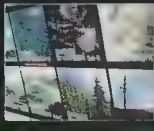
特記事項

防衛設備について

第3新東京市の真の建設目的は先に述べた通り、NERV本部を維持し、脱陸作戦の拠点とするところである。そのため、市街地とその周辺には、使役用途活用法(ミサイル発射施設、艦隊施設)や各種特殊施設が無数に設置されている。それらの設備は一部市を防御するには過剰な設備であったが、それでも通常兵器を撃つには十分な攻撃力に耐えて有効とはいえない。ただ、「他者に対する攻撃力はEVAのみ」と認識しているNERVにとって、その事実はすでに語り込み済みのものではなかった。例えば彼らに常に、使役の便利とEVAの支援に重点を置き「EVAを中心とした防衛体制を構築した。防衛設備においても、第3新東京市の防衛設備は高くまで「運動的なもの」と考えられるが定評がある。



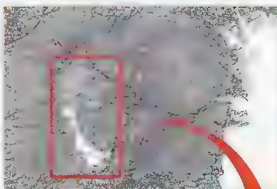
第3新東京市周辺には、さまざまな防衛施設があり、他にも防衛力が集約されている。これらで防衛の拠点を構築し、従来の運都EVA出撃のための重要な時間を確保している。



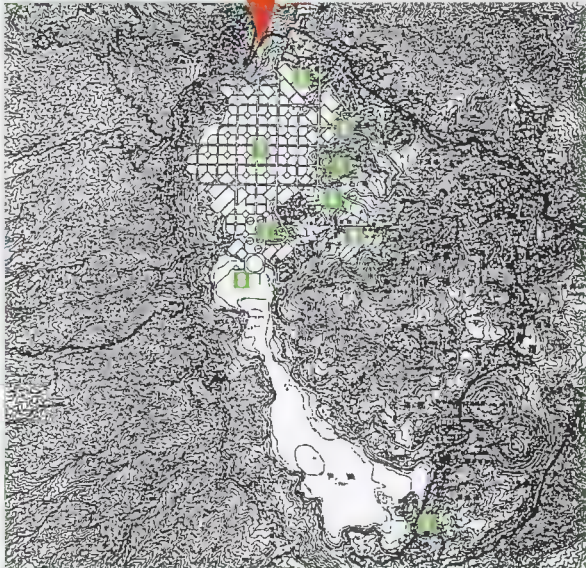
防衛用の設備の増設は、市街地を起点とする。市街地を起点とする防衛体制を構築し、従来の運都EVA出撃のための重要な時間を確保している。

第3新東京市の構造

特徴的な要塞都市として建設され、いまだ完成を見ていない第3新東京市。産業化や交通網の発達といった都市機能を多量に持つ一方、一定の都市の体は成している。



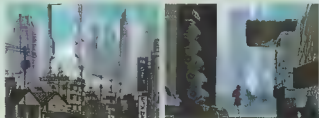
●第3新東京市 主要施設概要



- 1 第3新東京市市街地
- 2 旧市街
- 3 第3新東京市立南都中学校
- 4 丘の上公園展望台
- 5 コンフォート17(ミサドの跡地)
- 6 団地(レイの邸園)
- 7 集光ビル
- 8 半水上都市
- 9 ロープウェイ

実質的には使役用途用の要塞都市として建設された第3新東京市。その住民のほとんどは、NERV職員とその関係者とされている。そのため、都市に建設された主要な施設は、NERV関連の科学の待った施設や、その関係者の生活に必要となる施設である。なお、最も重要な施設であるNERV本部は地下の巨大空洞、ジオフロント内に建設されているため、一般人の目に触れることはない。

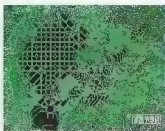
ちなみに、市街地については2015年においても建設作業が継続されており、第3新東京市は都市として未完成の状態といえる。



第3新東京市市街地と、市街地の防衛力が高まる第3新東京市。また、種々の使役用途の施設が建設されており、独自の要塞を成している。

●第3新東京市 主要施設概要

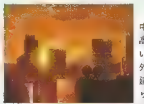
先に述べたように都市の建造目的が「使徒迎撃用の要塞都市を造る」という特殊なものだったため、第3新東京市の主要施設は新旧の差が激しい、それぞれ施設の概要は以下のようなものとなっているが、主に一般人も利用する各施設は古いものも多く残っている。ここから、第3新東京市が使徒迎撃用の要塞都市であることを最優先として建造されていた事実が窺える。



周辺地帯を見ても分かる通り、各地の面積の平均が確保されているのは人工ブロックのみであり、都市圏の多くは（その中心部に密集している）。

1 第3新東京市市市地

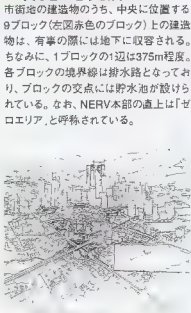
計画通り建造が進められた市市地は着陸時に整備され、高層ビルのはが、隠された探査システム、防衛用兵器システム、EVA支援用の兵器ビルが無数に建てられている。



中央部のブロックは高層ビルが林立している市市地。それ以外の場所は、古い建造物の束もろはと見受けられる。

■市市地の地下収容ブロック

市市地の建造物のうち、中央に位置するBブロック（左図赤色のブロック）上の建造物は、有事の際には地下に収容される。ちなみに、1ブロックの辺りは375m程度。各ブロックの境界線は貯水路となっており、ブロックの交点には貯水池が設けられている。なお、NERV本部の直上は「ゼロエリア」と呼称されている。



2 旧市街

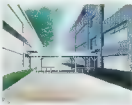
基本的に日箱積町を指す。ただし人工ブロックとその周辺、芦ノ湖周辺にも古い建造物が残っており、これらを総称して「旧市街」と呼ぶ場合もあるようだ。



生息に密着した旧市街はほとんど手を加えられおらず、市街地中心部には歴史的な、どのような遺構も残している。

3 第3新東京市立第百中学校

桜シヅメが通う中学校。使徒襲撃後は多くの生徒が疎開した。なお、シヅメの2年A組は、後にEVA操縦者候補が集められたクラスであることが判明した。



特に目立った設備も無い、一般的な中学校である。ただし、学生が卒業した後の、若干回校とした習習が築かれている。

4 丘の上公園展望台

市街地からやや離れた、御殿場付近の緑地帯にある公園。第3新東京市を一望できる奇景に見晴らしの良い展望台があり、車で乗り入れることも可能である。



防衛地帯背後、感度が高い。第3新東京市を眺められた。公園はミサのマンションから程近い場所にある。

5 コンフォート17（ミサの部屋）

ミサたちが共同生活を営んでいるマンション。その外観から、2005年以降に建設されたものと思われる。市街外の閑静な住宅街にある12階建ての高層物件となっている。



ミサの部屋より11階A階の個室。窓際にはLEDライトが飾られ、大抵のインテリアは後身生活を反映させた、10分物な decor だった。

6 団地（レイの部屋）

レイがひとり暮らししている団地。20棟以上が建て並ぶ大規模住宅区で、2005年以降に建設されたものだが、2015年時にはほとんど居住者がいない状態となっている。



解体が進められているため、住居の姿はほとんど見受けられず。完成後ほどに開業した飲食店も閉業してしまっている。

7 集光ビル

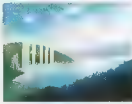
人工ブロック上に立てられたビルで、ジオフロント内に太陽エネルギーを供給する重要な施設。なお、同ビルが立ち上がるブロックは「集光ブロック」と呼称されている。



芦ノ湖付近に点在する特異的な造形の集光ビル。その向きにより、地下空間であるジオフロントにも日光が射し込む。

8 半水上都市

市街地最南端に位置し、集光ブロックと芦ノ湖に隣接するように造られた区画。同ブロックにはドーム状の施設のほかにも、港のような係留場が設置されている。



集光ブロックに隣接していることからNERV関連の施設と推定されるが、その内部や用途は明らかになっていない。

8 ローブウェイ

核融合炉から発電機を結ぶ「陸橋ローブウェイ」と、しらび平から千歳駅を結ぶ「駒ヶ岳ローブウェイ」の路線。使徒襲撃時には、それぞれ防衛隊として活用される。



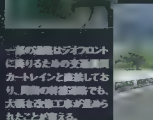
共に芦ノ湖にある2線路には、有事に備えて多数の戦艦が隠されており、足場を足すための防衛隊となる。

// 追加報告 //

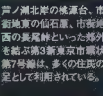
交通機関について

第3新東京市環状第7号線やリニア式小田島ロマンスカーといった交通機関、さらに6車線または4車線の道路が多数の目的により張り巡らされており、第3新東京市の交通網は十分に整備されているといえる。しかし、他地域からの交通の便は決して良いとはいえず、特に第3使徒襲撃以降はその傾向が顕著となり、運路を予定している都市とは言い難い状況が顕著になる。

こうした状況の要因は日本国政府あるいは他国が意図的に立ち入り制限したためと見る向きもあるが、使徒襲撃が予見されていたこと——、ひいては第3新東京市が対使徒襲撃の主戦線となることが予想されていた事情を考慮すると当然の措置といえるだろう。



一部の路線はジオフロントに降りた際の交通機関からリニア式と共通している。一部の路線は、大規模な交通機関が建設されたことによる。



芦ノ湖北岸の橋立台、市街地東の白石山、市街地西の風見峠といった橋外を結ぶ第3新東京市環状第7号線は、多くの区間の見直しが行われている。

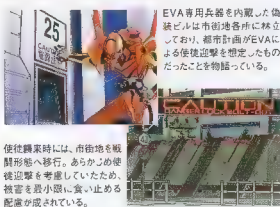


新橋線と本線（リニア式小田島ロマンスカー）が併走している。新東京市と新東京市を結ぶ交通機関は、それぞれ別々のルートで運行されている。

科学都市の名で偽装された 堅固な要塞都市

科学の特を結集して進められた第3新東京市の建設は、旧東京を失い復興の途上にあった日本にとって、数少ない明るい話題であった。しかし、その科学都市の建設計画（第2次運都計画）は、議会の満場一致をもって迎えられた訳ではない。建設計画に内包されていた防衛設備は、使徒の脅威に曝される以前の日本において一都市を防衛するには過ぎたものだったため、異を唱える人々が少なくなかったのだ。しかし、セカンドインパクト以降、絶大な発言力を有した国連の意向によって計画は認可され、急ピッチで様々な施設の建設が進行。都市としてはいびつながら、使徒が襲来した2015年には、それを迎撃しうる堅固な要塞都市が形を成していた――。

なお、要塞都市としての建設計画の狙いは使徒迎撃の拠点を造ることであり、建設を主導した国連だけでなく、その予算を捻出した日本政府もその子細を了承していたと考えるのが妥当だろう。さらには「使徒が第3新東京市（さらにいえばNERV本部）に引き寄せられるように出現する」という事情についてもあらかじめ知らされていた可能性があるが、その真偽は定かではない。



EVA専用兵器を内蔵した偽装ビルは市街地密着に林立しており、都市計画がEVAによる使徒迎撃を想定したものだったことを物語っている。

使徒襲来時には、市街地を縦断形態へ移行。あらかじめ使徒迎撃を考慮していたため、被害を最小限に食い止める配慮が成されている。



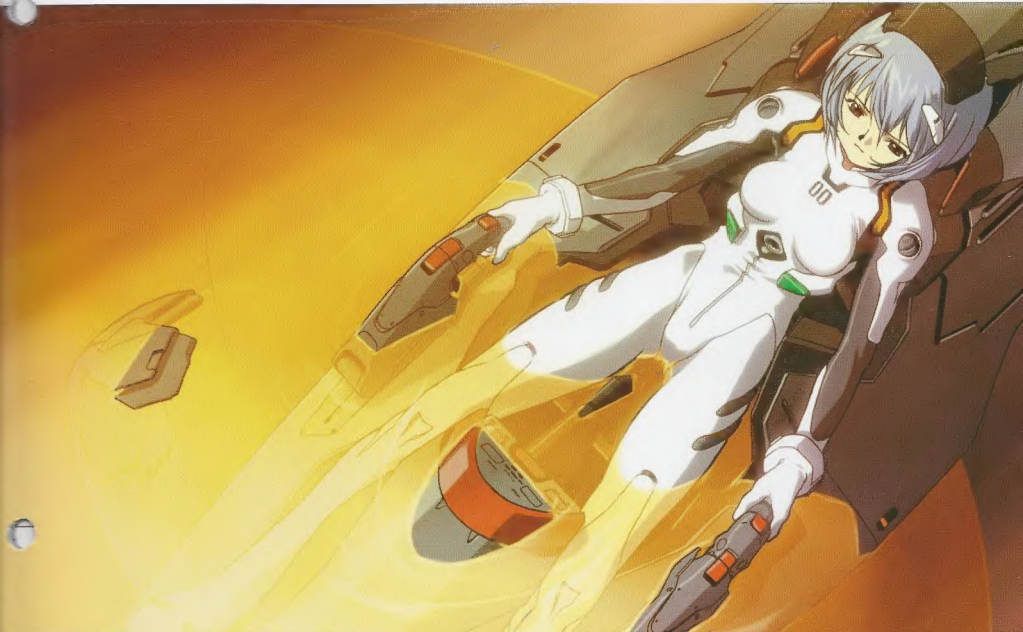
特記事項

市街地施設の運用について

市街地に林立する高層ビルは、対外的には商業機能の中核を担う施設と考えられている。しかし、使徒襲来が予想されている当該地において、主要施設を対使徒戦の主戦場に転換することは不自然極まりないとの指摘も多い。中央ブロック上に立てられたビルは地下へと収納されるがそれも安全とはいえず、事実、使徒の攻撃により「天井都市」とも呼ばれる地下収容部は幾度も崩落の憂き目にあっている。なお、そういった市街地施設がはらんでる欠点を指摘する声がある一方、一部では「それらの高層ビルが、運都に相応しい都市として印象づけるための要諦では」という見方もある。施設の運用状況を考えると的確な判断はあながちあるが、その真偽は定かでない。



風圧に収納される高層ビルは、その重量と比して大気圧力の影響を受けやすいため、たとえ「それらの高層ビルが、運都に相応しい都市として印象づけるための要諦では」といっても、その真偽は定かでない。



EVAにエントリープラグが挿入されて起動準備が終了した後、第1次接続が開始され、プラグ内へのL.C.L.が注入が始まる。胎児と羊水溶液としての特徴を有するL.C.L.を介し、パイロットに酸素が供給される。

L.C.L.

L.C.L.

発生初期段階の胚が包まれている羊膜上皮から分泌され、羊膜腔を満たす羊水。爬虫類、鳥類、哺乳類といった有羊膜類の胚や胎児は、この羊水に浮いた状態で発育する。羊水が存在することによって胎児の生活運動空間が確保され、ある程度の腹部への衝撃ならば緩衝作用を発揮して胎児はまったく衝撃を受けない。また、羊水の温度はほぼ一定に保たれているため、胎児の保温に役立つ。このように内外の環境因子の変化にもかかわらず生体の状態が一定に保たれるという性質であり、健康を定義する重要な要素——、ホメオスタシス(恒常性)を持つ羊水により、胎児は良好な環境を維持することができるのである。

汎用型決戦兵器・人型人間エヴァンゲリオンに挿入されたエントリープラグに身を置きながら、L.C.L.という液体に浸れることで外界からの衝撃を緩衝され、息を続ける操縦者——。彼らが置かれた状況は胎児のそれに酷似しており、密閉されたコ

ックピットに座する操縦者に様々な恩恵を与えるL.C.L.は羊水を想起させる液体といえよう。

液体で肺を満たすと直接血液に酸素を取り込むことが可能となるなど、優れた多面的な性質を持つL.C.L.。EVA開発の初期段階から活用されてきたこの液体は、遅くとも2004年、碓ユイが犠牲となったEVA初号機起動実験当時から使用されていたものであるため、その生産設備はゲヒルンからNERVへと受け継がれてきたものと考えられる。しかし、共に受け継がれてきたEVAと同様に、その成分や生産施設などの詳細は碓ゲンドウら主要メンバーのみが認識していたものようである。ただ、その成分については第14使徒ゼルエル戦の後、シンジが自我境界線を失い量子状態のままエントリープラグ内を漂っていた際、生命の源である原始地球の海水——、「生命のスープ」に酷似していることが判明している。人体と海水は非常に近い成分(人体は存在量別に水素、酸素、炭素、ナトリウム、カルシウム、リン、硫黄。海水は存在量別に水素、酸素、ナトリウム、塩素、マグネシウム、硫酸、カリウム、カルシウムが主元素)であるため、人体(シンジ)の成分を

考慮に入れたとしても、L.C.L.自体の基本的な成分は原始地球の海水に近いものになると考えられる。

なお、シンジが最後の僕徒とされる第17使徒タブリスを撃退した後、「人類補完計画」が発動。秘密結社ゼーレの思惑通りに「人類補完計画」が発動された際には、すべての人類は個体生命の形を維持することが困難となり、L.C.L.と化した。おびただしい量のL.C.L.は海を形成して、地球は生命が誕生する前の原始地球へと還ることとなった。もし仮にシンジがヒトの形であり続けることを望まなければ、人類の歴史はいったん幕を閉じ、新たな生命の源からの誕生を待つことになったのではないだろうか。

関連事項 RELATED MATTERS

- エントリープラグ
- EVA
- アダム
- セントラルドグマ

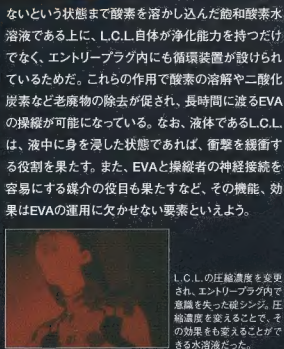


EVAパイロットの格闘する縦長190cmのプラダ。碓ゲンドウはEVAの制御システムに侵入することで、起動準備が完了する。

**EVA運用に必要な不可欠である
水溶液の主な役割**

機能と効果

L.C.L.で肺を満たされた操縦者は空気に同じ様に呼吸が可能。単純な酸素供給のみならば多量の酸素が溶かされた高濃度酸素水でも可能だが、その場合は二酸化炭素の排出がうまくできず、長時間の活動には耐えられない。L.C.L.が長時間の使用に耐えられるのは、L.C.L.がこれ以上溶けないという状態まで酸素を溶かし込んだ飽和酸素水溶液である上に、L.C.L.自身が浄化能力を持つだけでなく、エントリープラグ内にも循環装置が設けられているためだ。これらの作用で酸素の溶解や二酸化炭素など老廃物の除去が促され、長時間に渡るEVAの操縦が可能になっている。なお、液体であるL.C.L.は、液中に身を浸した状態であれば、衝撃を緩和する役割を果たす。また、EVAと操縦者の神経接続を容易にする媒介の役目も果たすなど、その機能、効果はEVAの運用に欠かせない要素といえよう。



■エントリープラグにおけるL.C.L.の特徴

EVA運用時のL.C.L.は、つまりエントリープラグに注入されたL.C.L.は、前述の通り操縦者の「呼吸(ガス交換)」、「衝撃吸収」、「神経伝達」を助ける役割を担っている。なお、エントリープラグ内に注入されるL.C.L.は、黄色い色

帯びた半透明の液体である。だが第2次コンタクトで神経接続を開始し、L.C.L.に電荷することで分子配列の変化を促し、擬似的なスクリーンを形成。以降は透明の液体となり、色調認識の妨げを受けることはなくなる。

一起動準備が終了するとエントリープラグ内にL.C.L.が注入され、足下から徐々に液に浸かっていく。操縦時には当然抵抗はあるはずだが、操縦者の動きを限り、水中や海中ほどの抵抗は受けないようだ。ちなみにエントリープラグは、実際に左図より斜めに傾くからで挿入される。

●●衝撃吸収

使徒の攻撃を受けた際には、エントリープラグ内にも過度の衝撃が加わる恐れがある。だが同プラグ内には常にL.C.L.で満たされているため、ほとんどの衝撃は吸収される。



●●呼吸(ガス交換)

気密性の高いエントリープラグだが、内部はL.C.L.で満たされており、常に呼吸が可能な状態となっている。ただ、液体の数が多いからかちとるため最初には抵抗があるようだ。



●●神経伝達

L.C.L.はEVAとの神経接続に不可欠となっている。L.C.L.とは「Link Connected Liquid(同調接続用液体)」の略と名づけられており、その真偽のほどは定かではない。



**NERVに存在する生産設備
多面的性質を持つ水溶液と**

L.C.L.の正体

EVAの運用に必要な不可欠とされるL.C.L.。NERVにおいては当たり前のように活用されているこの水溶液だが、その正体を知る者は少数ない。さらに、その生産設備はNERV最深处に位置し、そこに足を踏み入れることが許されている人員はごくわずかである。その詳細が極秘とされている理由はその生産方法にあるようだ。

なお、その成分については、「原始の海洋」に類似していると言われている。原始地球の海洋水は生命を構成する成分が含まれていると言われ、生命のスープと呼ばれることもある。

ハーモニクス実験など、実験以外でも当然のようにL.C.L.が利用されている。NERVが所有するL.C.L.の量は、非常に豊富であったことが窺える。



浄化能力が5% L.C.L.の約10倍に、「生臭い」と同じにタンジシ、この特殊な性質については、L.C.L.の特殊な成分によることろが大きいと推測される。

■運用方法

EVA運用時には呼吸、衝撃吸収、神経伝達といった多面的性質を持つL.C.L.。それらの特徴のほかにも、EVA操縦者を精神汚染から保護する「防壁」の役割を果たすと考えられている。また、母体の海水に類似している上に浄化能力も持つとされるその性質から、有機物の「保存液」としても利用可能だと考えられる。ただし、実際に何らかのものを保存するためにL.C.L.が使用されたという資料は存在せず、その事実を確かめることは困難といわざるを得ない。



純度レイが入っている中央プラントや、ダンプシステムのコアが無数に収められた水櫃にも、L.C.L.が使用されていた可能性が高い。

■生産設備

NERV本部の最深处にあるターミナルドグマには、L.C.L.プラントと命名されている生産工場が存在する。L.C.L.がここで生産されていることは事実だが、同施設の実験室第1号体アダム(後日リリスと判明)を秘密裏に開発している施設である。ただ、L.C.L.を生産する設備らしきものは見当たらず、施設内にはリリスの肉片から流れ落ちる液体が溜まった湖が広がっている。L.C.L.はその体液を採取したものと見られるが、その真相は明らかになっていない。



L.C.L.プラント内において、巨大な十字型に輝いているリリス。その肉片からは体液が流れ落ち、足下大きな湖を作り出している。

特記事項

生命のスープ

EVA初号機を依代とした人類の縮宮が行なわれた際、個体生命を形成していた「心の器」であるA.T.フィールドが消失し、人々はL.C.L.と化した。その海を、綾波は「生命の海」と呼んだ。この生命の海という言葉は比喩的表現だった可能性も高く、仮に生命の元となる物質を生み出した原始地球の海水——生命のスープを指す言葉であるとするれば、L.C.L.は生命のスープそのものだったといえるだろう。



シンジが自我意識を失い意識状態のままエントリープラグ内を漂っていた間、伊吹マヤは「プラグ内の成分は原始地球の海水に類似しています」と説明していた。しかし、L.C.L.が生命のスープと同等のものならば、彼女の見解は当然の事象であったといえる。

惣流・アスカ・ラングレー

EVA試乗者専用の操縦適格者。EVA操縦者の適性を待つ受験者としてはふたり目にあたり、セカンドナルドンと呼ばれる。日本人とドイツ人のクォーターだが、国籍はアメリカ。手足のごく華麗にEVAを操る操縦者の持ち主。キャパリと物を言う明るい性格の少女で、14歳にしてドイツの大学を卒業するほどの高い知能を持つ。幼少期において、精神障害を負った母親の言動と自殺がトラウマとなり、それ以来、「他者に認められること」に対し極度に固執する人格が形成されていたものと思われる。シンクロテストの成績がシンジに抜かれたことや、第14使徒ゼルエル戦において惨敗を喫したことなどを原因として精神の均衡を崩しはじめ、第15使徒アラル戦における精神攻撃によって自暴自棄状態に陥る。その後、第16使徒アルミサエ戦においてEVAの起動が不可能になるほどシンクロ率が低下、彼女の精神は衰え、ついには精神に異常を来すこととなった。しかし、戦時自衛隊帰隊の新・三号機の中に母の魂を感じたアスカは立ち直りEVAシリーズを圧倒するが、その後、復活したEVAシリーズによって完膚なきまでに破壊された。



シンジたちの通う第3新東京市立東雲中学校に転校したアスカ。その容姿から男子たちに絶大な人気を博している。

惣流・アスカ・ラングレーの養母

アスカの養母。父と関係のあった女医と同一人物かどうかは不明。ドイツから国際電話をかけてきた。アスカは表面上東洋的なコミュニケーションを行っており、嫌いではないが苦手意識のある相手らしい。



会話の話題は碇シンジについての様子。アスカは彼が社会的ではないと語っており、「まさか」と答えていることからシンジが何らかしらの問題を抱えているの回答がもしない。

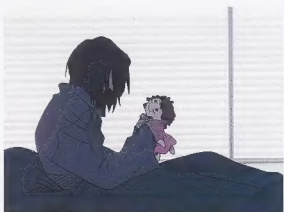
惣流・アスカ・ラングレーの父

アスカの実父でありキョウコの夫。精神崩壊したキョウコの担当医らしき女医と、いつ頃からかは不明だが男女関係を持っていた。そのことはアスカも察していた様子。

惣流・キョウコ・ツェッペリン

SORYU KYOKO ZEPPELIN. 基礎には1974-2005とある。アスカの実母。ゲルマンドイツ支部に勤める研究者であ

ったと思われる。自らが提唱した接触実験の際、事故により精神崩壊に陥ってしまう。その後、アスカを懐と認識できず人形を壊し思い込め日々を送り、最後は舌を括って自殺した。なお、アスカはEVA試乗機に母の存在を感じており、そのコアにキョウコの魂が用いられていることも推測される。



キョウコが人形をアスカとして可愛がり、自分を見てくれたことが、アスカの人格形成に大きな影響を与えている。

素体

生体部品により構成されるEVAの本体。これに特殊装甲板兼拘束器具を纏った状態で運用される。胴部には足る、手には爪などが見られ、“人造人間”の名を冠されるに足る構造を持つ。骨格や臓器などに形状の差異はあるども、人間のものと酷似した器官を所有していると思われる。



第3使徒サキエルの自爆によって外装が外れ、素体の構造が明らかになったEVA母号機。

SONY SUPER 8

相田ケンスケが所有しているビデオカメラ。「スーパー8」は、1964年4月にコダック社より発表された8mmフィルムの新規格であるが、このカメラはそれとは関係なく、H:8モデルだと考えられる。



軍事用ニアであるケンスケは、このビデオカメラをもって機を撮影、記録機を撮影している。

ソニックグレイブ

EVAが使用する兵器のひとつ。EVA試乗機が7使徒イス

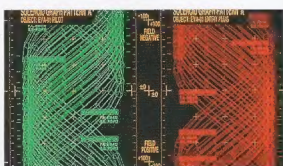
ラフェルとの初戦で使用した。そのほか、第14使徒ゼルエル戦の際にも、実際の使用は見られなかったものの、地面に突き立てられていた。プロGRESSIV・ナイフと同様に高振動粒子の刃を持つ。接触する物体を分子レベルで切り裂くことができる。なお、グレイブとは13世紀~17世紀頃に西洋で使用されていた、広い片刃の穂先を持つ長柄武器の一種。日本の薙刀に似た形状を持つ。



このソニックグレイブをもって試乗機はイスラフェルを真二つに切断したものの、両使徒は2体に分離して復活してしまった。

ソレノイドグラフ

EVAと操縦適格者のバリスバターンを、それぞれグラフ化したもの。ゼロによる人間補完の儀式の際、EVA初号機に提案していたシンジのデストローが形而下化されるのに続いてソレノイドグラフが反応、自我境界が顕体化した。なお、ソレノイドとは電気工学において、コイルの電磁気力より鉄心で駆動させる機能部のこと。



グラフの線が電磁コイルを従っていることから、ソレノイドグラフと名づけられたものと推測される。

た 行

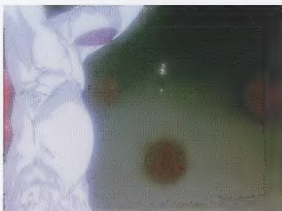
CATEGORY た

Glossary

ターミナルドグマ

NERVの最深部にある施設。セントラルドグマの終端部にあたる。地下2008m地点にはメインC.L.プラントに通じるCIRCULATION LINE NO.3があり、この線の向こうに、十字架に隠されたリリスが隠されている。また、ダミーシステムの製造もここで行われており、レイの育った人工進化研究所第3分室や、試作段階のEVAの廃棄場なども存在。基本的にここへの入室は、碇シンジ、冬月コウジウ、赤木リツコ、綾波レイのみが許されているようである。なお、扉の立入禁止区域表示によると、ターミナルドグマへの不法侵入者には見つけ次第の発砲が許されており、また、

10年以下の禁固、10万ドルの罰金、もしくはその両方が科せられるらしい。



NERVを襲撃した使徒のうち、第17使徒タプリスだけがターミナルDグマの最高部までたどり着くことができた。

第1宇宙速度

物体を地球の円軌道に乗せ、その軌道を維持するために必要な速度で秒速約7.9km。衛星速度、円軌道速度ともいう。衛星軌道上の第15使徒アラエルを破壊するために投擲されたロンギヌスの槍は、即体後機滅後に第1宇宙速度を突破して軌道に乗り、回収不可能となってしまふ。

第1次直上会戦

第3使徒サキエルとEVA初号機の戦闘の名称。人権擁護委員会特別集会会議による使徒の総括において用いられた。このほか「E事件」「第3新東京市街戦」などとも言われている。NERV初の使徒戦であり、EVAの初陣。

第1使徒

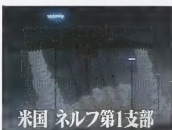
セカンドインパクトの原因とされる光の巨人のこと。ターミナルDグマに崩壊された存在に対し、葛城ミサトは「アダム。あの第1使徒がここに」と語っている。アダムも参照。



極秘資料にあった巨人の姿。シルエットはEVAに酷似し、また、胸部にはコアらしきものが見える。

第1支部

NERVの第1支部。米国にあるらしいが、詳細は不明。EVA3号機は、ここから日本に輸送された。EVA4号機を抱えていた第2支部が謎の爆発により消滅したのを受け、保身のため3号機をNERVに預けることになったと推測される。



雨天の中、3号機はEVA専用長距離輸送機によって第1支部から移送された。

第一脳神経外科

NERV内部にある病院の科のひとつ。エヴァンゲリオン操縦資格者が負傷した場合、この第一脳神経外科内の病室に収容されることが多い。深カナル以外の操縦資格者、綾波レイ、碇シンジ、惣流・アスカ・ラングレー、鈴原トウジが一度は収容され、入院したことがある。このことから、EVA操縦者は脳神経に負担がかかることが多いと推測される。また、ここに収容されない場合はまず緊急応答室に送られることが多い。なお、脳神経外科は、脳神経だけではなく脊髄や末梢神経などの外科的治療を専門とする分野。



EVAに初めて搭乗したあと、碇シンジが収容されたもののこの第一脳神経外科の一室であった。この後、シンジは何度となくこの病室に収容されることとなる。

第9使徒

半楕円体の本体に、蜘蛛のような4本の脚を持つ第9使徒マトリエルのこと。EVA3機の同時展開による作戦で破壊された。マトリエルも参照。



この使徒は強力な溶接液を産出することにより、NERV本部への直接侵入もしくは破壊を行った。

対空砲

箱根ロープウェイに偽装した対空機銃。第4使徒シャムUEL襲来の際、山の中間にあるミサイル陣地など共に使用されたものの、A.T.フィールドを破ることはなく、効果もなすことはなかった。



使徒に向かい砲火を浴びせる対空砲などを見て、冬月は「税金は無駄遣い」と述べていた。

大剣

EVAシリーズ（EVA量産機）の標準装備。見た目通りかなりの重量を持つ巨大な両刃の剣だが、一般的な剣とは異なり中央部に持ち手がある。高振動粒子の刃を持つかどうか定かではないが、剣の自重を利用して直接的な破壊力を生むタイプの武器である。実はロンギヌスの槍のレプリカであり、槍状に変化する機能も持つ。変化後はオリジナルと同様A.T.フィールドを貫く性能があり、ある程度の伸縮も可能な模様。このロンギヌスの槍のレプリカはセーレによる人類補完計画を発動させる際、EVA初号機を依代とするためにも使用された。



アスカの操るEVA汎号機はこの大剣を奪い取り、量産機を攻撃していた。

第5使徒

正八面体の、無機質な形状を持つ第5使徒ラミエルのこと。加積子箱による攻撃でEVA初号機を沈黙させた後、第3新東京市市中心部、ジオフロントの直上に移動してシールドによる穿孔を行なったNERV本部への直接攻撃を目論んだものの、その後EVA初号機およびEVA零号機によるヤマト作戦において狙撃、撃破された。ラミエルも参照。



葛城ミサトは防空共に高い能力を持つこの使徒を空中要塞に喰っていた。

第3声ノ湖

第3新東京市近郊、第10使徒サハクエルが爆発した跡地にてできた湖。なお、第2声ノ湖は第7使徒イラファルが爆発した跡地にてできたものと思われる。本来の声ノ湖は神奈川県足柄下郡箱根町にある、箱根山のカルデラ湖。県内最大の湖で、早川の水源地にもなっている。



湖というよりは巨大なクレーターにできた水溜りといった風なのだが湖ノ湖は、お互い近い位置にあるようだ。

第3次接続実験

第3次接続は第2次コンタクトのごとで、神経接続のセカンドステージにあたるもの。第1回機体相互互換試験において、碇シンジがEVA零号機に搭乗した際、この第3次接続実験を行なった「A」神経接続開始した直後に精神汚染が発生し、零号機は暴走することとなった。



零号機が実験の際に暴走したのはこの第3次接続実験を行なったときから原因となる。1度目の暴走事故との関係性は不明。